

第618回建設技術講習会 現場研修事業の概要

1. 首都圏外郭放水路

…………… 春日部市上金崎地先～小湊地先

首都圏外郭放水路は国道16号の地下約50mに建設された延長6.3kmの地下放水路です。低地が広がる中川、綾瀬川流域の浸水被害を軽減するために建設された地下トンネル形式の放水路で、流域の中小河川の洪水が溢れ出す前に地下トンネルに取り込み、安全に江戸川に放流する施設です。洪水を取り込む直径30m、深さ70mにおよぶ5本の巨大立坑をはじめ、直径10mの地底トンネル、重量500tの柱が59本もそびえるマンモス水槽、そして、毎秒200m³の水を排水する14,000馬力のタービンなど、そのすべてが想像を超えるスケールとなっています。平成5年3月に工事着手し、平成18年6月には大落古利根川（第5立坑）から江戸川までの全区間が完成しました。首都圏外郭放水路は通水開始以来、年間平均7回程度稼働しており、この間、中川・綾瀬川流域を浸水被害から守り続けています。通水開始から平成26年度までに91回の稼働実績があり、過去最大流入量を記録した平成26年6月の低気圧では、約1,350m³を排水しています。

（視察キーワード：災害対策、新技術・新工法、ストック効果等）



2. 大相模調節池 越谷レイクタウン

…………… 越谷市レイクタウン、大成町、東町

大相模調節池のある中川・綾瀬川流域は、低平地で水はけが悪く、これまでも大雨により度々浸水被害を受けてきました。一方、この地域は、ベッドタウンとして宅地化が進み、抜本的な治水対策が求められるようになりました。そこで、昭和63年4月に新市街地整備と治水対策（河川調節池の建設）を一体的に実施する「レイクタウン整備事業」が国の新規施策として創設され、越谷レイクタウン地区が事業採択されました。調節池はURが越谷レイクタウン特定土地区画整理事業により整備し、元荒川からの導水路及び中川への排水路は埼玉県が整備しました。普段は1～1.5m程度の水深を有し、ボートやカヌーなどの水上スポーツをはじめ、地域の方々の憩いの場として活用され、洪水時には元荒川や中川の沿川地域の浸水被害を軽減します。

越谷レイクタウン地区は、JR武蔵野線越谷レイクタウン駅を中心に広域交通利便性を活かし、越谷市東南部地域の中心的拠点形成を図るため、河川事業（調節池）と土地区画整理事業による新市街地整備を一体的に進めるものであり、全国初のモデル的なまちづくりとして、「親水文化」を創造し、21世紀にふさわしい「水との共存文化を創造する都市」を目指し整備されました。この地区計画に沿って建築物などを造ることにより、道路や公園等の公共施設と一体となったまちづくりを実施しました。また、これからのニュータウン開発は、少子高齢化社会に対応した福祉機能が盛り込まれた街、地球環境に配慮して計画された街、住民が将来にわたって生き生きと暮らすことができる魅力ある街など、新しい時代にふさわしい街づくりが求められており、越谷レイクタウンでの様々な取組みが、これからの新しい街づくりの代表事例となるよう、さらなる展開を図っていきます。

（視察キーワード：災害対策、ストック効果、環境保全、全国初モデル事業等）



3. 東京外環自動車道 三郷JCT改築事業

…………… 三郷市番匠免

常磐自動車道と首都高速6号三郷線と首都圏三環状道路の一つである東京外環自動車道を接続するジャンクションです。三郷IC（常磐自動車道）、三郷出入口（首都高速道路）、外環三郷西IC、外環三郷東料金所（東京外環自動車道）が併設されています。また、東京外環自動車道の新倉PA以东はほとんど高架となっていますが、三郷JCT内は地上を通過し常磐自動車道・首都高速道路をアンダークロスしています。交通量の増加に伴い、三郷JCTにおいては恒常的に渋滞が発生しており、渋滞解消を行い高速道路の機能の回復等を目的に改築事業を実施しています。サグ部における速度低下と織り込み交通・合流摩擦による速度低下が原因となっており、供用中の外環道及び常磐道の基礎や橋脚・橋桁の拡幅、国道298号上へのランプ橋を新設し別線ランプ橋を構築するなど、渋滞解消に向けた改築事業を実施しています。

（視察キーワード：ストック効果、安全管理等）

